

南アルプス前衛	釜無山	No.030
---------	-----	--------

鳳凰三山へ行こうと思って準備をしていたが、コンピュータのトラブルで徹夜になってしまい、一日を失ってしまった。やむなく「釜無山へ夜行日帰り」に変更ということになった。いわば因縁つきの山行。

釜無山は2116.5m、甲府盆地に西側から流れ込む富士川の支流釜無川の発する所である。ハイキングや登山がブームとなり始めた時期ではあったが、この山を目指す人は少なく、ガイドブックなどから得られる情報にも限りがあった。様々な資料で調べた結果、富士見駅から釜無川の源流に入って山頂を目指そうという計画を組んだ。

昭和39年5月31日

最近馴染みになった中野発0時06分の臨時夜行列車。

天気は快晴、富士見駅を6時に出発。芋ノ木(とちのき\*註)・横吹・木ノ間の集落を抜けて花場へ向かう。花場からは釜無川に沿って走る稜線の南側の腹を巻いてほとんど登りと感じないような緩やかな登り。いたるところ作業道のような切り開きが入っており、おまけに標識が一本もないため、地図を見ては独り言を言いながら歩くこと何度か。

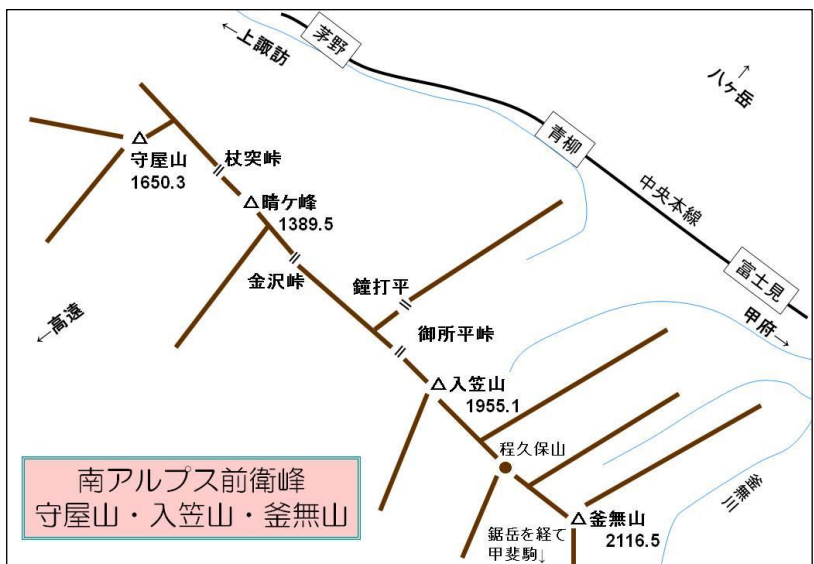
山頂に突き上げるドウガ沢に沿って登り広葉樹林を抜け出ると、そこは一面万緑の夢のようなカーペット。手に触れてみれば腰丈ほどのクマザサなのだが、一面に広がる様は遠目に眺めるとカーペットに見える。このクマザサもさることながら、南に目をやればわずかに湧き出た雲の下に駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、鋸岳と容姿に特徴のある三峰が常に顔を見せてくれる。

ところが、この思わず詩興の湧出するような素晴らしい景色に酔って歩いている最中に、予想外のアクシデントが発生してしまった。トレーニング中に軽く捻った右ひざが痛み出したのだ。右足にまったく体重が掛けられない。試して見ると、登ることはできるが体重がかかる下りは難しい状況。おそらく、あと30分ないし一時間程度で頂上が踏める地点まで来ていた筈だが、諦めることにした。(右写真:釜無山への道より甲斐駒・鋸・仙丈)



ドウガ沢上部にある木こりの飯場小屋で、12時40分から13時25分まで昼食と大休止。休息を取っても足の調子は元には戻らずビッコをひ

いて往路を下った。途中で、走って来たジープが乗せてくれて富士見駅までの長い里道を歩かずにすんだ。16時10分に富士見駅に着いたが上りの臨時列車が出たばかりで、約一時間待って17時11分発の高尾行に乗る事になった。運が良くないことは続発するようだった。頂上を踏むことができなかったといういやな思い出が土産になったが、そんな不運を吹き飛ばすような素晴らしい眺望の連続に、カメラのシャッター



## 踏み跡 < My mountains >

一は休みなく働いてくれた。甲斐駒・鋸岳・仙丈ヶ岳という憧れの存在が生まれた旅だった。

\*註：茅ノ木(とちのき)という地名について

国土地理院の地形図にはふりがな付きでこの地名が記されているが、これは誤記だったようで本来は「茅ノ木(とちのき)」だったらしい。

2023年に調べ直して見たら、現地の地名は「とちの木」という平仮名表記になっていた。

以上

(修正・更新:2023年10月)